

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1725		
科目名	日本語 V		
担当教員	田 昌禾		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 5		
講義室	国際交流センター	単位区分	必,選必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	総合教育科目		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	語学		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP6-K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 A1 グローバル感覚-5% A2 異文化適応-5% D1 市民的要素と参加-10% K1 ライティングコミュニケーション-30% K2 オーラルコミュニケーション-50%		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進期期～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	アカデミックな表現を使い、日本語でまとめた文章（400～500字）を書くことに慣れるようにします。このクラスでは、表現や文章の書き方だけでなく、書き言葉の語彙についても勉強します。 （キーワード）聴解、読解、漢字、記述、コミュニケーション ※授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。		
授業の趣旨	■副題 大学での学習や日常生活を行うための日本語の知識と4技能（聞く・話す・読む・書く）の中級レベルを学びます。 ■授業の目的 ①大学での学習と生活を円滑かつ効率的に行えるために、講義受講・日常生活を行うための4技能の日本語力を身につけ、様々な場面での具体的なコミュニケーションができるように身につける。 ②中級レベルの日本語能力を高めるために、学んだ日本語を使って、日本人学生と交流したり、表現力を修得する。 ③日常生活や大学生活でのコミュニケーション能力を高めるために、聞く・話す・読む・書くの4つの技能について何度も繰り返しながら修得する。 ■授業のポイント 外国語はインプット・アウトプットを何度も繰り返すことがとても大事です。毎日予習・復習を行うことで多角的なコミュニケーション能力を身につけるようにします。		

総合到達目標	■グローバルパーソンとしてコミュニケーションできる中級レベルの日本語能力を高めるために、日本語の中級レベルの知識を習得する。また、文章及び口頭で自らの考えを的確に表現し、様々な場面での具体的なコミュニケーションができるように修得する。 ・日本語の音韻規則や個別発音などを注意しながら文章の中で正確に発音することができる。（第2回～14回） ・短文、そして複文や重文を正確に作ることができる。（第2回～14回） ・間接話法、友達同士で使う表現、敬語などを区別しながら話すことができる。（第2回～14回） ・日常生活で使う会話が自由に話せるようになり、日常生活の様々な問題なども解決できる。（第2回～14回） ・日本語の習得と同時に日本の文化や社会について理解できる。（第2回～14回）	
成績評価方法	■授業理解確認課題2回（20%）:適用ルーブリック A1・A2・D1 （評価の観点）当該単元の授業理解度を評価します。 （フィードバック方法）授業時間中、あるいはポータルにて解説・講評を行います。 ■中間総括・到達度確認・リアクションペーパー講評（30%）:適用ルーブリック K1・K2 （評価の観点）日本語授業内容の理解度を評価します。 （フィードバック方法）授業時間中、あるいはポータルにて解説・講評を行います。 ■授業総括・到達度確認・レポート講評1回（50%）:適用ルーブリック K1・K2 （評価の観点）日常生活で必要とする簡単な表現が日本語でコミュニケーションできるかを評価します。 （フィードバック方法）授業時間中、あるいはポータルにて解説・講評を行います。	
履修条件	『日本語Ⅱ』を履修した外国人留学生	
履修上の注意点	文法の暗記や文字を見てわかるだけではコミュニケーションができません。授業で学んだことをインプット・アウトプットを何度も繰り返しながら、授業外でも積極的に使ってみましょう。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 本授業の内容、目標、学習上の注意点、成績の評価方法などを説明する(A1、A2、D1)。 ③予習（60分） シラバスを確認する。 ④復習（60分） 『日本語Ⅱ』に関する授業の内容、目的、到達目標を確認する。 ※下記15回の授業計画については、履修者の事前知識や習熟度、領域比・人数などに応じて最適化するために多少調整する場合がある。変更がある場合には授業内、あるいはポータルにて指示する。
	2	①授業テーマ 第16課 可能表現 ②授業概要 自分の日常生活や能力においてできることについて表現できるようにする(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
	3	①授業テーマ 第16課 可能表現2 ②授業概要 状況、状態の可能性について日常生活や社会的な出来事を表現できるようにする(A2、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習などを取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。

4	①授業テーマ 第17課 授受表現 ②授業概要 授受動詞の動作方向と関係を理解しそれぞれを使って身近な出来事や社会的な表現できるようにする(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習 (60分) 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習 (60分) 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
5	①授業テーマ 第17課 授受表現 2 ②授業概要 て形＋授受動詞を使って身近な出来事や社会的な出来事を表現できるようにする。(A1、A2、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習 (60分) 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習 (60分) 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
6	①授業テーマ 第18課 目的と計画の表現 ②授業概要 目的と計画を表す言い方を使って自分の目標や計画について表現できるようにする(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習 (60分) 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習 (60分) 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
7	①授業テーマ 第19課 伝聞表現 授業概要 情報を伝える表現を使い、日常生活や社会的な出来事を伝えられるようにする。(A1、D1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習 (60分) 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習 (60分) 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
8	①授業テーマ 第19課 伝聞表現 2 ②授業概要 伝聞表現の書き言葉と話し言葉の使い分けを整理し、場合に応じて使えるようにする(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習 (60分) 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習 (60分) 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
9	①授業テーマ 第20課 受け身表現 ②授業概要 受身表現を使う場面を理解し、日常や社会の出来事について表現できるようにする。(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習 (60分)

	前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
10	①授業テーマ 『日本語Ⅴ』中間総括・到達度確認・リアクションペーパー講評 ②授業概要 今まで授業で学んだことを授業内中間テスト、あるいはリアクションペーパーを通じて把握する(A1、D1、K1、K2)。 ③予習（60分） 今まで授業で学んだことを復習する。 ④復習（60分） 授業内中間テストで理解しきれていなかった部分を再確認する。
11	①授業テーマ 第21課 使役表現 ②授業概要 使役表現が使われる場面を理解し、それを使って日常や社会の出来事について表現できるようにする(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 第9回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
12	①授業テーマ 第22課 使役受け身表現 ②授業概要 使役受け身文を使い、日常や社会の出来事についての表現できるようにする。(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
13	①授業テーマ 第23課 比喻表現 ②授業概要 比喻表現を使い、物事や概念について説明できるようにする(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
14	①授業テーマ 第24課 受け身表現2 ②授業概要 受け身表現を使い、国の地理、歴史、言語について説明できるようにする。(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
15	①授業テーマ 『日本語Ⅴ』授業総括・到達度確認・レポート講評 ②授業概要 今までの授業を振り返るとともに、必要に応じて補足説明を行う(A1、A2、K1、K2)。 ③予習（60分） 今までの授業を振り返り、理解していない部分をメモする。

	④復習（60分） 今まで授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
関連科目	日本語VI（RMGT/SSCS1726）
教科書	『テーマで学ぶ基礎日本語VOL2』 くろしお出版 『中級までに学ぶ日本語初中級ブリッジ教材』 研究社
参考書・参考URL	『日本語を学ぶ人のためのアカデミックライティング講座』 アスク
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に指示します。 ■オフィスアワー 時間外にアポイントメントを希望する方は、メールで事前に連絡をしてください。
研究比率	

